



を提供する」という発想だ。人間の生活リズムに合わせて空間の様相が変化することで、テーマ性の押しつけがましが軽減される。

また、テーマ性の過度な追求は運営側の持続可能性にも大きく関わる。派手な装飾や特殊な設備は維持管理コストを押し上げる要因となるし、清掃や修繕に時間がかかれば客室の回転率も落ちてしまう

さらに、この宿泊施設は地域の職人と協力して、従来の伝統技法を活かしつつ、現代的な機能を持たせた調度品を開発し、「新しいのに懐かしい」という評価を得ている。地域固有の要素を活用することでテーマ性が発揮できた事例である。

近年はテーマ性の捉え方も変化してきた。見た目重視から、五感で楽しむ体験型へシフトしているのだ。例えば、ある温泉旅館では地元の竹材で内装を整えた。見た目だけでなく、竹特有の香りや触感まで楽しめる空間づくりが高評価のポイントである。

食事や入浴といった、宿泊施設の基本機能自体をテーマ化する試みも進んでいる。地元の食材を使った創作料理をその土地ならではの器で提供したり、古来の入浴作法を現代的にアレンジして提供したりすることで、「当たり前」の機能に物語性を持たせ、新しい価値を生み出している。

結局のところ、宿泊施設は泊まる場所だ。どれだけ魅力的なテーマ性を備えていても、ぐっすり眠れなければ失

**Point**

- 過度なテーマ性の追求が機能性の低下という問題につながることも
- 需要が体験型へとシフトするいま、テーマ性と機能性の両立がカギ



持続可能な観光地へ!

# 地域連携による観光業支援の進め方



解説 株式会社カンコウタイシ



鴨志田由貴 (カモシダ ヨシタカ)  
代表取締役社長 / 京都芸術大学教授

「全ての人に観光を」をテーマに、参加型観光で観光をアップデートすることをミッションとして、2024年より現職。マーケティングや事業開発を専門領域に、様々な企業のサポートに従事する。

## テーマ性と機能性の両立

第7回

ゴジラの口腔から水蒸気が噴き出し、新宿の街に轟音が響き渡る……。これは、「ホテルグレイスリー新宿」で毎日繰り返される光景だ。SNSには「まるで映画の一場面」という投稿が連日寄せられ、観光客の撮影スポットとしても人気である。

この「ゴジラヘッド」には

単なるエンターテインメント性にとどまらない狙いがある。非日常的な体験の提供と、ホテル本来の機能のかけ合わせだ。今回はこの「テーマ性と機能性の両立」という、宿泊施設が直面する最大の課題に迫りたい。

「映え」を重視して機能性を損なう例もSNSでの「いいね」の数

は、必ずしも宿泊満足度と一致しない。実際、テーマホテルの口コミには「インスタ映えはしたが、眠れなかった」という内容の声も見られる。派手な装飾を施し写真映えを重視するあまり、ベッドの寝心地や収納スペースが犠牲になってしまいうケースも珍しくない。

グレイスリー新宿のコンセプトルーム「ゴジラルーム」では、この課題を独自の方法で解決した。昼は一般的なホテル室内に見える壁面が、夜になると特殊塗料とブラックライトの効果で幻想的なゴジラの世界に変貌するよう趣向を凝らしたのだ。

この独自技術もポイントだが、今回注目していただきたいのは「昼と夜で異なる体験

からだ。グレイスリー新宿では、ゴジラルームを通常の客室清掃の手順で対応できるように設計している。

グレイスリー新宿の例は、ゴジラという強力なIP(知的財産)を活用できたからこそだと感じるだろうか。

実は、テーマ性の追求には必ずしも大規模投資や有名IPを必要としない。ある古民家宿泊施設では、江戸時代の建具をそのまま活かしつつ、その裏に最新の断熱材を仕込んだ。見た目は純和風でありながら、現代人が求める快適性を確保したのだ。

テーマ性と機能性は本来は相補的である

近年はテーマ性の捉え方も変化してきた。見た目重視から、五感で楽しむ体験型へシフトしているのだ。例えば、ある温泉旅館では地元の竹材で内装を整えた。見た目だけでなく、竹特有の香りや触感まで楽しめる空間づくりが高評価のポイントである。

食事や入浴といった、宿泊施設の基本機能自体をテーマ化する試みも進んでいる。地元の食材を使った創作料理をその土地ならではの器で提供したり、古来の入浴作法を現代的にアレンジして提供したりすることで、「当たり前」の機能に物語性を持たせ、新しい価値を生み出している。

敗である。一方で機能性だけを追求した無機質な空間では特別な体験は得られず、顧客の心をつかめない。

重要なのは、テーマ性と機能性を対立概念として捉えないことだ。両者は本来、相補的な関係にある。優れたテーマ性は機能性を損なわず、むしろ際立たせるものだ。

双方の両立は二者択一の問題ではない。むしろ両者をいかに融合させ、新しい価値を生み出せるかがカギになる。地域の宿泊業者を見つめる金融機関の担当者にも、こうした観点が必要だ。